

令和5年度第1回静岡市立登呂博物館協議会

- 1 日時 令和5年7月13日(木) 午前10時00分から午前12時00分まで
- 2 場所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
堀切 正人会長、渋江 かさね委員、伊熊 修委員、海野 美枝委員、
木村 貴子委員、木山 克彦委員、鈴木 杏佳委員、野田 修委員、
藁科 彰良委員、弓削 幸恵委員(全10名)
(事務局)
高田登呂博物館長、梶山副主幹、田中主査、清水主任主事、宮崎主事、
渡邊主事
- 4 傍聴者 1人
- 5 議事記録 (1) 令和4年度の事業報告
(2) 令和5年度の事業予定
(3) 関連報告
(4) 議題
「小中学校における地域の総合学習による登呂遺跡・登呂博物館
の活用について」

6 議事内容

(1) 報告に対する質疑

【事務局説明】

堀切会長 委員に対し、質疑があれば発言するよう依頼

(堀切会長)

ただいま事業報告、事業計画等をご説明いただきましたが、委員の皆様からご質問、ご意見をお願いいたします。

(伊熊委員)

ご報告ありがとうございました。その中で一点、案内誘導の改善ありがとうございました。バス停からの誘導、盛り土をしたということで大変有り難いと思います。

もう一点は、子どもたちはバスで来て降りて、駐車場から博物館に歩いて来る。一般の方もそうですが、駐車場ですぐ、登呂遺跡はどんな施設なのか、どんな建物でどんな位置なのかとまずは看板を見らと思うんですよ。前回も言ったと思うのですが、看板の植え込みが伸びすぎていて、小さい子どもは見えにくいんですよ。今朝も確認してきたがやはり見にく

いので、バスから降りた小学生等、子どもたちが見やすい、振り仮名を振るなどの配慮を今後もしていただければありがたい。補足のお願いですが、よろしくお願いします。

(堀切会長)

先ほどの説明でもありましたが、コロナで全国的に博物館の入館者数が落ち込んで大変厳しい状況だったんですけれども、5類になり昨年度もコロナ前の状況に戻りつつあるというお話でしたが、コロナの影響関係についてもう少し詳しく分析されていることがありましたら教えていただけますか。コロナ前と後で、例えば、お客さんの行動が変わったとか、あるいは、お客さんの客層が変わったとか、何か変化があったのか。あるいは、元に戻るとい感じなのか。入館者数も大事ですが、質の面とかで何かお気づきのことがありましたら、教えていただければと思います。

(事務局)

昨年度の予想よりも少し早めにお客様が復活した主な理由は、令和3年度と4年度の比較しますと10月だけでも約17,000人増えております。これは登呂まつりの4年ぶりの開催と、駿河区地域総務課主催で民間の皆様のご協力のもと初開催したトロベークWeekと登呂遺跡会場のスルガフェスにより、予想以上の皆さんに会場していただきました。それに加え、子育て支援団体のはびままピクニック&収穫祭ハッピートロウインのイベントも初開催して、登呂まつりで約5,000人。10月の週末のイベント開催が、主な増加理由です。逆に県外の小学校の来館者数は11月に減少しています。これは修学旅行や社会科見学で東京方面など遠方に行っていた学校がコロナ禍によって中部横断自動車道で近場の静岡に来ていただき始めたのが令和3年度で、昨年度はそこからまた東京方面などに戻ったと考えられるなどのマイナス要因もありましたが、秋の多種のイベント開催と新聞掲載やツイッターなどによる情報発信の効果があったと考えております。

(堀切会長)

個人的にもコロナ前とコロナ後の人の動き、流れや質の変化は気になっているところです。前の委員会でも、コロナによって東京方面に行く人の流れが変わってこちらにというお話がありまして、それが落ち着いてまた中央志向と言いますか、大都市圏への人の流れが復活してくるようなことは博物館だけではなく大学の募集や志願もそうですが、全国的な傾向として大きくまた動いていくのかなと思います。やはり静岡に居る人間としてはそこに歯止めをかけたい気持ちもあり、コロナ禍で東京ではなくこちらに来てくれた人たちも多かったわけですから、そういう経験も活かしながら中央志向に歯止めをかけたいと考えています。一方で、コロナ状況の中では、人に会うとか何かを触ることが非常に避けられた数年間だったわけですから、それが落ち着くことによって、人に会うとか体験することが、もう一度その価値が見直されてくるのが起こるんじゃないかと。そうなると、体験型ミュー

ジウムということでやってらっしゃいますので、生きてくる。そういう意味ではチャンスなのかという気もしますので、また動向等をご注意いただいで頑張っていたいただければと思っております。

一つの企画展で一万人を超えるようなお客さんを集めているものが2つ3つあるみたいですが、非常に評判がいいんじゃないかなと。小さい企画展のスペースですけども、私もいつも見させていただいていますが、小さいながらも非常に充実した展示内容で、いつも楽しませていただいています。例えば、春の「誕生スルガノクニ」は10,000人以上。あと、「祀りとまつり展」も4,000人、「静岡に眠る弥生時代の開拓者」が12,000人いらっしゃったということで、一般の方も結構多いですね。入館者数が増えた理由は何かありますでしょうか。

(事務局)

例年、春の企画展が割と会期間が長いのもあるのですが、始まるのが2月3月から始まりまして、5月6月ぐらいまでの会期で毎年やっているのですけれども、ちょうどその頃、社会科見学で小学生が来たり、春休みにご家族でみえられる方も多いため、一般の方も増えているのかなと思います。

もう一点は、ここ数年、春の企画展とかでは、市外、県外から資料を借りてきまして、いつもは見ることのない資料を揃えたりしておりまして、特にこの前までやっておりました特別展「静岡に眠る弥生時代の開拓者」では、南関東の関係や、登呂遺跡の前身の有東遺跡という登呂遺跡の東側の遺跡がどのように成立したのかを西伊勢湾の地域との関わりとか、そういう中でより市外の資料なども併せて使うことで、県外の方など、遠方から見に来てくださる方が多かったものですから、観覧者数に繋がったのではないかと考えております。

(2) 議題に対する意見

【事務局説明】

(堀切会長)

事務局からの説明と野田委員からの状況報告を踏まえて、今回の議題である小中学校における地域の総合学習による登呂遺跡、登呂博物館の活用について皆様からの活発なご意見を願います。

(弓削委員)

詳しい説明をありがとうございました。今、高松中で大きく組立てを変えられたと、コンセプトが登呂遺跡の上に建っている学校というのは初めて聞きまして、そういう切り口で伝えてくださるとインパクトがだいぶ違って見えてくるなと感じます。なので、小学校はそれぞれ地域が違うし、色々ところに中学も分かれていくような、富士見小も豊田中もあるな

んてお話を聞いている中で、登呂だけをやるのが難しい中で、どんなふうにやっていくかというのをご苦労されているのがよくわかりました。ただ、共通で施設を見学に来るところに始まって、稲作も実際に田んぼで体験している学校もあるようなので、今、実際に育てている成長ぶりをICTを活用して、「今日の田んぼ」みたいなものを三つの小学校でも見られると自分たちは育てられてないけれども、仲間内で育てている田んぼが見られるのは、一つ親近感が持てるかな、雨や台風のときはやっぱり気になる、稲大丈夫かなと思うような気持ちになったらどうかなというのを感じます。あと、自分でも今年縁があって、田んぼのことに関わらせてもらった結果、バケツで稲を育てるのもやっているんです。そういうのを遠い学校だったら、森下小はやっぱり来るのが大変ということであれば、学校でも窓口になるようなことができるような指導を少し出向いてやってくださるといいのかなと思いました。別件で由比小学校に行ったときにも、5年の先生が自力でバケツで稲作りやっていますと言われていたんですけども、そういうところがプロの方の学習要素も含めて手前で稲作ということを教えていただくと付加価値が上がるし、5年でやっていけば、6年で学んだ時に理解の度合いが変わってくるかな。自分の手を動かして感じた部分が多ければ多いほど、次の学びにすごく繋がっていくかなと感じました。

(堀切会長)

今のご意見等につきまして何かございますでしょうか。他のご意見でも結構です。

(鈴木委員)

ご説明ありがとうございました。私自身が学びというところをポイントに考えたときに、どういうふうに自分の中に学びが入ってくるかなと考えたときに、人に発信したり伝えていくことでより自分の言葉として学びが深まるなと思っています。そこを考えたときに、例えば、中学校の皆さんが博物館で見学して色々な体験をして、それを学校や逆に近隣の小学校の皆さんにその学びを伝える場、例えば、登呂を案内するとか、そういう繋がりで自分の言葉で登呂を伝えるように工夫してツールを作ったり、何かしらの工夫をすることでより学びが深まるのかなと思ったので、そういう機会を作ってもいいのかなと思いました。それを自分の言葉で発信することによってより愛着が出てくるというか、例えば、大学で県外に行ったときも実はこういうことをやったみたいな話ができるような学びになるのかなと思ったので、今どういう形で発信されているかはわからないですけど、そういうのも取り入れてもいいんじゃないかなと思いました。

(堀切会長)

その点に関しては、最初、事務局からお話がありました拡充というところですかね。子どもたちの生活を、例えば博物館であるとかそういうところまで繋げることができればなお良いだろうということですね。ありがとうございます。確かに自分でやってみるとか自分の

言葉で語ることがやっぱり大切なのかなと私も思います。学校の現場は非常にお忙しいと思うんですね。お忙しい中を、時間割の隙間をやりくりしながらこういうことに取り組みたいらっしゃることは大変素晴らしいことだと思うんですけど、ただ、その素晴らしいことをやるには実はご苦労もたくさんおありなんじゃないかなと思います。事務局の資料の2ページ目に課題というところもあって、実際にやっていくにはこういう課題があると書いてありますけれども、課題について委員の皆様からお気付きのこと、課題に対してこういう考え方もあるんじゃないかとか、そういうヒントになるようなことがもしありましたらご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(藁科委員)

中学校の立場で話をしていくと、こういうことを高松中学校でもやっていったらどうかみたいな話にもなってしまうかなというので、慎重に言おうかなと思うのですが、この9年間の登呂での学びを最終的に中学三年生の段階でどういった形で子どもたちにどこをゴールにしていくかというところを考えられて、高松中学校の校長先生もこういった流れを作っていたらと思うのですが、その場をこの登呂まつりも含めた、登呂博物館や登呂遺跡でどう発表して、どうその成果を学びの成果を表していくか。最終的に子どもたちが地域を巣立っていくときに地域に愛着と誇りを持って、自分はこういう勉強をしたよというところを周りの人に表現できるような場を作っていくとなると、中学三年生は見ていただいてわかるように、修学旅行はあるは、進路決定に向けて色々なことを考えていかなければならない時期でもあるのですが、その合間をぬって少しそういった発表の場であるとか、地域貢献をできるか、そういったものを例えば登呂まつりでそういったブースをって話もありましたし、以前いた丸子で宿場まつりがあったんですけど、チラシを分けたり、色々なことの案内をしたりする募集を三年生に限らず中学校に対して必ずしてくれて、中学生もあれは中学生になると色々なことをやれてというところで貢献していたところもあったので、例えば、登呂まつりで今、大学生や様々な方々がやっている本当に簡単な補助のお仕事を中学生が担っていくことで、自分がそういった地域に貢献して色々な活動ができていたところを、お祭りは夜にもなっているものですから、時間的な問題は慎重にやらなければならないところはあると思いますが、そういったところで学びの発表と、そして地域貢献を特に中学三年生がそういったところで活躍できる場を用意することもできるのかなと思いました。

(堀切会長)

ありがとうございます。他にございませんか。

(伊熊委員)

私は森下小学校の学区で、市民なので学校の授業を詳しくは知らないのですが、今年たぶ

ん森下小学校の6年生が駿府城公園に来まして、発掘現場と市の博物館と葵船を20分ずつ交代で何班かに分けて乗っているんですよ。小学校6年生については、たぶん歩いて行って午前中に3か所回り、お昼を食べて帰ってくるような中で歴史を学ぶ。今、ちょうど家康をやっていますので関心も高いですが、家康の街づくりを歩いていく途中で、なぜここが水落という名前なのか、稲川は稲の川だから登呂博物館、登呂公園と繋がっているかもしれない、そういった関心が芽生えてくれば、小学校6年生であれば自分で調べて学べるきっかけになれば。例えば、現場に行って天守台の跡を見るとか、そういうきっかけが重要かなと思います。今、森下小学校ではそうやっていますが、確かに登呂博物館は遠いですが、確か去年一回、子ども会か森下連合会かな、町内会で来たと思いますけど、そういった限られた中で工夫しながらやっているとは私は思っています。森下小学校の場合は、地域学校の共同活動、どこの小学校でもやっていると思いますけど、地元の森下小学校の森っ子応援団サポーターということで、相互学習の中でも協力して、地域のことを地域の人から聞くと授業とはまた違った印象を受けると思っていますので、そういった森っ子サポーターとしても協力をさせていただいていますし、私は、実は葵舟の船頭もやっていますので、色々関係を持たせていただいています。森下小学校はそういう状況です。

(堀切会長)

学校が時間のない中をやりくりして、こういう学習計画を立てていただいていることは、登呂遺跡や登呂博物館にとって非常にありがたいことだと思うんですけど、それに対して博物館側がどういう方法ができるのか、どういうお手伝いができるのがポイントだと思うのです。資料2ページに博物館側としての課題がありますが、博物館側として今、最も重要な難しい課題のようなものがあれば教えていただければと思います。

(事務局)

社会科見学なども来ていただいて、学校、小学生にも登呂の歴史を紹介してはいるところなんですけれども、私たちが把握しなければならない学校側のニーズ、ここに来て社会科見学で何を学びたいのか。もちろん歴史を学びたいのはあるとは思いますが、もう少し本質的なところで博物館が、何を提供して、どういった伝え方がいいのか。例えば、登呂遺跡が何年にできて、どういうものがあってということだけをただ羅列するのではなくて、例えば、子どもたちに考えさせるような機会を作ったり、こんな調べ方もありますよと、子どもたちに考えさせる機会が必要ではないかなと思っております。そういうガイドの仕方を今後みんな考えていかなければならないところは共有しています。その中でやはり社会科見学一つにしても私たちの提供の仕方が学校側の期待しているものになっているかどうかがいまいちわからない部分もありますので、教育への連携の仕方をより深く結びついていかなければならない、学校現場をもっと知らなければならぬと思います。

(堀切会長)

私は時々博物館の展示を見させていただいて、毎回面白いですよ、こんなのもあったと毎回発見があって結構面白いんですけども、ただ我々大人が面白いと思うものと、子どもが興味を引くものはまた違うんだろうなと思うんですね。子どもの目線から見て面白い展示物がたぶんあるだろう。それは実はわからない。じゃあ、誰がわかるのかというと、子どもたちに日々接してらっしゃる先生方なんだろうと思うんですね。まず子どもが何に興味を引くのか、注目するのかというところから入っていくのも一つ大事なのかなと思っています。先生方、子どもにとって登呂や登呂博物館ってどう見えているのでしょうか。登呂遺跡、あるいは登呂博物館に飾ってある展示物でもいいんですけども。

(野田委員)

展示物はあくまでも展示物であって、自分の生活とは離れたものであって、先日お話しした中で言ったのは、例えば、矢じり、本当にこれで鳥を仕留めることができるのか、石包丁って写真では見ているけどそれで本当に簡単に稲が取れるのか、というところに面白みがあると思うんですね。だから、ぬいぐるみでもいいから鳥を弓矢で射る体験がこれを見ていたら載っていたのでいいなと思ったんですけど、そういったところは結構重要なんですね。これも先日お伝えした部分ですけども、実は、私は元々小学校に行ったことがなくて、中学校の教員をずっとやっていて、自分は社会科が専門なので、この辺のところをある日突然授業でやってと言っても、1分いただければ何時間でも授業をすることができます。でも、小学校に初めて行ってわかったんですけども、小学校の先生はあまり専門っていうのがないんですね。大体力を入れるのが国語と算数。例えば、社会ってまれに力を入れている先生もいらっしゃいますが、多くの先生にとってはあまり得意ではない分野なんです。例えば、私もこの前6年生の社会科の縄文弥生のところで授業をやらせていただいたんですが、授業の割り振りだと縄文弥生の導入から古墳時代まで大体7コマ、7時間の配分になっていました。大体の教科書だとこんな流し方がありますよというのに沿ってやっていっているんですけど、先生もあまり詳しく理解していないから、上辺だけをさらっと言っちゃうんですね。自分はずっと中学校の社会科でやっていましたから、くだらない話をしたり、ちょっとしたトピックスみたいなことを出したりとか、例えば、なんで縄文土器っていうかわかるか、縄文土器ってどうやって作るか知っているかというふうにやると、子供たちはろくろで作るようなイメージを持っているんですね。昔はそんなの無いからねという話から、紐状に伸ばして、くるくる巻いていって長めの縄か何かで隙間をつぶしていくんだよって話をすると、だから縄文っていうんだっていうことで驚きとそういったところに面白みがあるんですね。じゃあ、弥生土器はなんで弥生かというと弥生町で発見されたから弥生土器だよと言うと、え、なにそれって話になるんですけど、そういったちょっとしたトピックスとかそういったところが楽しみがあって、それって実は小学校の先生ってあまり知らない方が多いんですね。なので、例えば、縄文から古墳時代までのまとめの時間の1コマとかで、専門の

学芸員がちょっとした面白い話を交えながらやるのも一つの手かなと思いますし、たぶんそういうふうにやりますよとなると食いついてくる教員が多いんじゃないかなと思います。

(堀切会長)

もちろん色々なこと工夫されながら、毎回展示や活動をされていると思うんですけど、子ども目線に立った活用の仕方はまだまだ工夫できるかもしれませんね。その辺り皆さんいかがでしょうか。私の勝手な考えですけど、そういうちゃんとした学術性や研究に基づかなくて、単純にこれがかわいい、形が変わっているとか、そういう本当に単純な見た目だけでも子どもたちの食いつきは一つのきっかけ作りとして使えるのかもしれないなと思ったりするんですよ。私も歴史の専門ではないので、見させていただくときにそういう歴史的な知識の面白さももちろんあるんですけども、単純にこんな変なのだったんだとか、これ見方によってはすごくかわいいんじゃないかとか、そういう楽しみ方もあると毎回感じているんですけども、そういうキャッチーなアプローチの仕方や展示の仕方を考えても面白いと思います。トロベーが人気があるわけですから、そういう方向からの工夫も考えても面白いので、子どもたちと一緒に考えると面白いと思う。

(海野委員)

しずおか学の副読本の目次だけが教育委員会のホームページで見られるようになっていたので、気になった点があったんですけど、お茶編が全部で6項目あって、収集した報告を整理・分析しようのあと、何かを学んでそうなったあとにお茶の場合は、お茶を体験しよう、しずまえ編の場合は、整理・分析しようのあとが表現・発信しようで、検定を作ろう・新聞を作ろうになっていまして、オクシズ編の場合は、未来をみつめて、オクシズのために私ができることとか、海洋文化編の場合は、分析しようのあとが未来を見つめて、海洋の未来に向けて私ができること、防災編では、整理・分析しようのあとは、検定を作ろう、家族会議を開こう、歴史文化編だけ整理・分析しようのあと、伝えよう・広げよう、相手を意識してまとめ方を工夫してみようになっているので、なんでここだけプレゼン要素を育てる部分が強いのかなと目次の比較から感じまして、今日の協議会の添付資料②の高松ののを見ると、一年生のときに小学校区のことについてみんなに紹介しようというアウトプットになっている。二年生は、帰りの会など短い時間で動画でもいいので、子どもたちが学んだことをアウトプット。これは対象が小学校との連携になっているので、小学校の子に向けてアウトプットしようという形になっています。三年生になると奈良の中学校との連携で、本当に審査員を見立てて旅行者を見立ててととなっているので、相手を意識してまとめ方を工夫して伝えよう広げようということが、アウトプットとしてきちんとこの中に構成されているなということが気になっていまして、なので、すごく短絡的ですけど、登呂博物館として三年生が作ったプレゼン資料の出来栄えにもよるかと思うのですが、例えば、企画展示とかのサテライトブースみたいなものを作って、中学校三年生だと新たに何か博物館と一緒にやって

いく時間もないと思うので、アウトプットする成果物を登呂博物館で活かしていくことが提案できると、これが地域向けなのか、あわせて旅行会社向けとかにも営業ツールとしてアレンジできるかもしれないので、アウトプットの成果物を活かす方向で博物館がやっていくことが、今度は子どもの目から見ると、社会の中で博物館がどのように発信していくか、広げるというところがさらに現実的な勉強になっていくのかなと思うのと、あと成果物が子どもの目からの発信なので、先ほど子どもと大人は違うというところでそういったところのすごく博物館としても上手に活用できるのかなと思いました。親の立場だと、学校側のニーズを博物館が把握してこれどうだったのかなという先生や子どもたちとのフィードバックがないところがすごく残念だなと思うので、できればそういったチームか何かわからないですけど、先生方が子どもたちからのフィードバック、先生方からのフィードバックをいただいて、ブラッシュアップしていってもらえると親としてはせっかくの愛着を育てるところなので、マッチしてなくて残念だったとなるのはすごく惜しいなと思うので、そういったオンラインミーティングなのか、お忙しいとは思っているので、できる方法で翌年翌年という形で継続して愛着と誇りを育むために良くなっていくようなミーティングみたいなのは是非先生方と持っていただきたいと思いました。あと、きっかけのところでは、産業のところではファッションとか美容とかそういう観点をに入れてあげると、そういったことに興味がある子たちにも学びが繋がるのかなと思いました。あと、教育委員会のホームページの中で、しずおか学で学んだ地域の自慢や静岡市の良さを積極的に発信する児童生徒のことを静岡市子ども PR 隊とって缶バッジが貰えるようになっていて、蒲原西小の児童がバッジを付けて岡部宿に行って蒲原宿の PR をしている活動が載っていたので、前回の委員会のときも確か提案したのですが、そういった子どもたちが誇りとか自慢という意味で自分が PR 隊なんだという小学生のときの体験も 9 年間の学びの中だと大事になっていくのかなと思いました。ある物なので、缶バッジなどの物も活かしていったらいいのかなと思いました。

(堀切会長)

ありがとうございます。今のご意見に関して事務局から何かございますか。

(事務局)

社会科見学してもらって先生方から感想を聞くと、皆さん気を使ってくれて良かったよというご意見は確かにいただいているのですが、より深いところで子どもたちが博物館に来て、またこの博物館を通過して帰る時にこんなものを持って帰ったとか、どんなことが深く刺さったかなとか、先生たちの期待に答えられたのかなと、より深く知るのがやはり私たち博物館が伝える側としては必要なところなんだろうと、海野委員のご意見をいただきまして身に染みたところでございます。皆さんからいただいた中で、アウトプットや展示などの PR する場を子どもたちにゴールというか一つの目標ということで意識してもらおうと深く知ってもらおうとか、色々自分たちで調べるところに繋がっていくんだと

皆さんからご意見をいただいた中で私が感じたところがございます。ありがとうございます。

(事務局)

色々なご意見ありがとうございます。先程サテライトブースの展示とか、皆さん一般の方も巻き込んで逆に博物館をご利用いただければありがたいなと思いました。例えば、先生方の研修で登呂博物館に来ていただいて学芸員の解説を聞くということはやられたことがあるのでしょうか。先生方の研修が年間を通して色々あると思うのですが、子どもたちへ伝える先生方が登呂遺跡や登呂博物館の楽しさを改めて再認識していただける機会が作れるのであればご利用いただきたいと思いました。

(野田委員)

教員研修については、各学校の研修、市教委主催の研修とあるんですけども、登呂博物館の学芸員さんの講話とかそういったものをやったことはないと思います。ただ、先ほど話をしましたように小学校の社会科授業に関しては、苦手としている教員は多いです。静岡市教育センターが教員の研修を担当している部署なんですけれども、授業作り講座がどの教科でもあります。社会科の指導主事がいるんですけども、例えばその方と相談していただいて、歴史の導入になるものですから、歴史の導入にあたって静岡の登呂遺跡を活かした授業のあり方とかそういった講座を年に一回か二回、静岡市教育センター主催で開いたらどうかという投げかけはできるんじゃないかなと思います。

(藁科委員)

本校、清水袖師は埋文がある地域ですから、埋文の方に昨年の夏来ていただいて、埋蔵物のセンターの中にある物を見せてもらうのがあったのですが、地域に神明遺跡など古墳がたくさんありまして、正直行くまで私は全く知らなかったのですが、そういったものを知る機会を小中合同の小中一貫教育の研修として昨年やりました。高松中学区とは離れてしまうのですが、例えば、神明古墳の歴史を登呂遺跡の歴史的なものに繋ぎながら話をすれば、この前も小学校6年生や5年生の生徒が古墳に行って、実際色々な土器を見させてもらったり、色々な体験をさせてもらったこともあるものですから、そここの登呂遺跡を繋ぐという、別に神明遺跡に限らず他にも遺跡はありますので、しずおか学というものを高松に限らず繋いでいくときに、色々な地域にある古墳群などと繋ぐフォーマットをいくつか作っておく中でやっていくのも一つの方法としてあるかな。それを静岡市の先生方に促していく中で、一人でも二人でも繋がるような機会ができればいいなと感じましたし、高松中学でそれをやるかどうかは別として、こういった提案はできますよというのは、博物館の方から発信した方がいいかなと思いました。

(野田委員)

それは確かに思ったんですけど、登呂博物館があって駿府城の博物館ができて、それから賤機山古墳は文化財課が所管していて、埋蔵文化財センター、バラバラなんですよね。でも、みんな静岡市じゃないですか。静岡市のそういったところが教育として一つのフォーマット、例えば、古代だったらここ、古代だったらこういうふうな水準の授業とこういうやり方ができますよ。古墳時代こうですよ、戦国時代だったらこうですよってだんだん今フォーマットっておっしゃいましたけど、そういうものができるといいと思います。

(伊熊委員)

今に関連して、今年オープンした静岡市の歴史博物館、あその音楽が古代の琴なんですよね。あの音楽こそ登呂博物館の音じゃないのかなと。あちはどちらかという、家康と今川と徳川でミスマッチだし、こっちにもし音楽をいただいて、こちらで古代琴を流していくことができればいいかなと思いましたので、できるかどうかはわかりませんが、提案させていただきます。

(堀切会長)

他に委員の皆様から、全体の今のお話でもいいですし、本日の議題全体に対しても結構ですので、ご意見ございますか。

(木山委員)

先ほどのフォーマットの絡みで、もうご存知だと思うんですけど、博学連携って割と色々な博物館でこういう実践例を出しているんですよね。特に今のフォーマットで言うと、例えば、横浜市歴史博物館も小学校から中学校の先生方とやって、博物館を使った授業実践例を先史から近代まで全部出しているのがあるのですが、そういうのが出ていると、おそらく学校の先生方もこういうふうにご利用すればいいんだという感じでアプローチしやすくなると思うので、これから実践していく中で積みあがってきたものはどんどんホームページ上で発信しておく、近くの先生だけではなくて、山梨の先生とかだっって見学に来るときにこういうふうにやればいよねとか、そういうことを古代の遺跡とこちらの遺跡とかになりますけど、山梨は非常に縄文が強いんですよね。縄文の強いところを見て、こっちにきたら弥生はこっちが強いよという感じで、今山梨と静岡の交流が進んでいると前回の話でも出たと思うので、そういうところに繋げるためにも実績をどんどん出していかれるのもよろしいかなと思います。

(堀切会長)

よろしいでしょうか。では、皆様から本日いただいたご意見は、今後の博物館運営に活かさせていただきますようお願いいたします。これで議事を終了させていただきます。司会進行を事

務局側へお返しいたします。

(事務局)

それでは、委員の皆様、長時間にわたりご意見いただきありがとうございました。これを持ちまして、令和5年度第一回静岡市立登呂博物館協議会を閉会させていただきます。

<閉会>